



ままごと、劇団員が増えます

柴 幸 男

最近、疑似家族の物語をよく見ます。血縁でも地縁でも、信仰でも経済的な結びつきでもない新しい家族が世界的に求められているように感じます。

劇団はその新しい家族になり得るでしょうか。ままごとは活動を重ねていくうちに良くも悪くも家族的になっていきました。

かつて、ままごとは演劇をとりあつかう会社を目指していたと思います。しかし僕たちはある段階で経済的な成長を手放しました。

自分たちの演劇で世界を変革しようという劇団らしい野望もかつてはあったように思います。しかし、その野望は少しずつ薄れてきました。

野望なき劇団は解散したほうがいいのか。そう考えたこともあります。しかし、ま

ごとだからできたことがあり、できることがまだある。だから、ままごとを続けるために、しかし漫然とは続けられないために、ここで少し変化してみようと考えました。

家族が変化する一番の方法は、新しい家族を迎え入れることだと思います。失ってしまった、今までになかった野望や感覚を持っている新しい家族を迎え入れることで、ままごとが変化し、新しい展開を迎えることを期待してみようと思ったのです。

今回、小山薫子さんと石倉来輝さんにままごととはプロポーズをしました。お二人とも若く優れた俳優です。そして演劇とは何か、劇団とは何か、自分の演劇とは何かを、生活とともに試行錯誤できる人だと思います。

その試行錯誤こそ重要だと考えました。現在のままごとにとって劇場公演はよそ行きの姿。本質は演劇的な生活にあります。滞在したり、移動したり、作り方や付き合い方を考えたり。今、僕たちは演劇作品そのものより演劇の形、演劇集団の形に興味があるのです。お二人ともそのことをよく知ってくれています。

と、もっともらしく書きましたが、なんだかんだ最終的な決断は勘と偶然によってなされました。ままごとは今までも能力を理由に劇団員を選んだことはありません。今までもずっと僕たちは勘と偶然を大切にしてきました。もしかしたらそれが、ままごとが会社や劇団になれなかった理由なのかもしれません。しかしそれこそが、ままごとが今もままごととして存続できている理由なのかもしれません。とにもかくにも、お二人が加入してくれることをうれしく思います。というわけで。

ままごと、劇団員が増えます。

そして、ままごと、まだ続きます。

駿府城公園を背景に展開 『ツアー』静岡公演レポート

ままごとの久々の新作『ツアー』。

登場人物3人、上演時間約45分のコンパクトな作品で、各地への“ツアー”を目指した本作は、4月に神奈川・STスポットで初演され、5月に静岡の屋外で上演されました。その静岡公演の様態をレポートします。

『ツアー』静岡公演は5月4日から6日の3日間。本公演は、「静岡ストリートシアターフェス『ストレンジシード2018』」の参加作品で、ままごとは駿府城公園を臨む静岡市役所の大階段前スペースで作品を展開しました。

『ツアー』は、幼い子供を突然亡くし、車で一人旅に出た女が、道中で出会った外国人の女性やナビとのやり取りの中で、“自分の旅”を見つける物語。劇中はドライブシーンが中心となっています。

神奈川・STスポット公演では、俳優がトランクに腰掛けて、トランクのタイヤを使って移動することで“ドライブ感”を演出。屋外公演となった静岡では、1台の車を中心に

車の“車内と天井”が、俳優たちの主な演技スペースとなりました。

初日はあいにくの強風

初日である4日は、手で抑えていないと帽子が吹き飛ばされるほど強い風が吹いており、天気はいのどこか肌寒い日でした。会場を訪れたお客さんも、みんなぎゅっと身を寄せ合うように開演を待っていました。

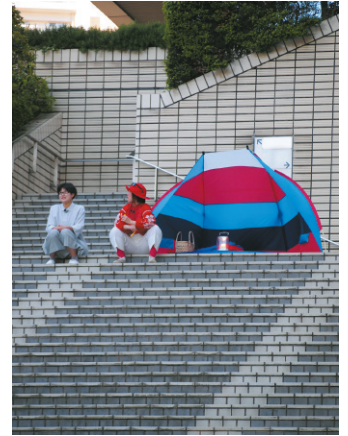
やがてナビ役の大石将弘が現れ、開演前のアナウンスをして車に乗り込むと、女役の小山薫子が登場。そして車内に乗り込む、かと思いきや大胆にも車の上へ上がって、“運転”の仕草を始めます。

ゆったりした小山の衣装は風を

受けて大きく膨らみ始め、(実際に車はまったく動いていないのに)まるで車のスピードがどんどん上がっているような印象を与えます。

当てどもないドライブを続ける女ですが、目に入る物や言葉をきっかけに、一瞬にして過去のつらい記憶に囚われて悶絶し始めます。何かから逃れるように旅を続ける女は、ふと立ち寄ったドライブインで、端田新菜演じる外国人女性に出会い、仲間とはぐれた彼女を目的地まで送り届けることになり……。やがて片言の日本語でやり取りする彼女たちは、想像もしない偶然に巻き込まれることになるのでした。

小山に続き車の天井に上がった端田の、赤い衣裳の裾が風にたな



静岡

びき、宙に美しいラインを描き出します。二人の背景には、陽に照らされた駿府城公園の樹々がきらめき、衣装の赤、車の白、樹々の緑、そして空の青さが視覚に優しく訴えかけます。

その光景を観ていると、彼女たちが遭遇するさまざまな出来事——つらい記憶や驚愕の珍事もすべて——が夢のように思え、肌を撫でる風ばかりがリアルに思えてくるのでした。

やがて森の中で動けなくなった彼女たちは、テントを発見します。大階段の踊り場に設置されたテントまで駆け上がり、遠くを臨みながら語り合う女と外国人の女は、言葉を越えた何かを共有するのでした。

『ツアー』まだ続きます

STスポット公演に比べると、車を中心に俳優たちの可動域はかなり広がって、特に小山と端田は、強風に煽られながらも、会場をめいっぱい動き回りました。大石は、そんな二人を車中から眺め、旅や



神奈川





撮影：熊井伶

自由に憧れるナビ役を、感情を抑えた演技で表現。ナビが時折見せる愛嬌ある言動に、会場からは笑いが起きていました。

また演技スペースから車を一旦捌けさせるシーンでは、黒のつなぎを着込み、脇で待機していた制作の宮永琢生と加藤仲葉が、人力で車を動かす1幕も。強風で声が届きにくくなったり、小道具が飛ばされそうになったりと屋外ならではのアクシデントが多少あったけれど、柴幸男は自ら音響操作をしながら、時折笑顔を見せて、じっと本番の様子を見守っていました。

ストーリーは同じなのに、ブラックボックスで観るのはまた異なる余韻が残る、屋外版『ツアー』。上演する街や場所によってどんな作品に変化していくのか、これからの展開にもぜひご注目ください。

なお本作の2018年後期のツアー予定が明らかに。10月上旬に新潟、10月中旬に香川・小豆島、11月上旬に沖縄で上演されます。続報は劇団公式サイトで随時発表予定です。

ままごと(新)劇団員紹介

このたび、ままごとに2人の劇団員が加入しました。
これまでの柴作品に関わりを持つ、小山薫子と石倉来輝。彼らは一体どんな人たち？
3つのアンケートに答える形で彼らが自己紹介します！

- Q1 初めて参加したままごと、あるいは柴幸男の公演
Q2 あなたにとって一番印象深いままごとの作品
Q3 あなたの座右の銘

小山薫子



おやま・かおるこ

1995年生まれ、東京都出身。都立総合芸術高校 舞台表現科で演劇を学ぶ。2018年に、多摩美術大学 演劇舞踊デザイン学科卒業。大学で柴幸男ゼミを履修。以後、大学内外で、柴幸男作品などに参加している。身体に興味があり、個人創作にも取り組んでいる。

A1 2016年夏、瀬戸内国際芸術祭にてままごとが滞在制作を行っている時に、見学兼、記録として付いて行きました。実際は、「ままごとさんと遊ぼうよ」でピアノ伴奏をしたり、喫茶ままごとのお手伝いをしました。

A2 高校の演劇概論の授業で、『わが星』の冒頭を見ました。それが私にとって初めての現代演劇体験で、衝撃的でした。わが町も好きで、それとも重なる星の一生、直ぐに戯曲を読み感動したのを覚えています。

A3 「難民として踊らなければ生きてる意味が無いよね」。最近友だちに言われゾクとした言葉です。強い言葉ですが、何者でもない者として、何をするかを問われ、わからない未来バンザイって思います。

石倉来輝



いしくら・りき

1997年10月18日生まれ。東京都出身。2016年、都立総合芸術高校 舞台表現科を卒業後、俳優として活動を始める。主な出演作に、SPAC『高き彼物』（演出：古館寛治）、FUKAIPRODUCE 羽衣×バルテノン多摩『愛いっぱい愛を』、スイッチ総研、チェルフィッチュ『「三月の5日間」リクリエーション』など。

A1 ミエユース 演劇ラボ2016 ままごと・まねごと「わたしたちは、息をしている」、「THEATER ZOU-NO-HANA 2015」

A2 2015年に三鷹で観た、『わが星』の再々演です。終演後、放心状態で電車で揺られながら「この劇団に入りたい!」と思い、検索しまくったのですが、募集すらしてなくて落ち込んだのを覚えています。まさかこんな形で実現するなんて、あの時の僕は思ってもいないと思います。

A3 特に決めていません。そもそも座右の銘で何なのか、ちゃんと考えたこともありませんでした。自分が頑固だからか、飽き性だからか、まだ自分の大切にしたいモノを、自分の言葉で決める必要がわかりません。断片的なことばでは保持しているつもりですが、「これだ!」というようなことばに決めてしまうことで零れてしまういろいろや、固まってしまう自分を怖れてもいます。なので、これからも座右の銘は特に決めないことにしようと思います! 最近ことあるごとに思い出すのは、小学校の卒業式で宣言した、「石倉来輝という名前で、世界を変えます!」です。

それぞれの現場から

端田新菜

五反田団稽古中のおばあさん4人
(撮影：前田司郎)

4月は、ままごと『ツアー』、5月は五反田団『うん、さようなら』、6月は山内雅子プロデュース『灼熱の巴里』に出演させていただきました。それぞれの作品ごとに、演劇的修行の要素が違って、ゴリゴリに幸福でした。先2作は子供を亡くした人の話で、あと1作には息子がプチ出演したので、ずっと息子のことを考える演劇生活でした。

2018年春、端田新菜と大石将弘は『ツアー』以外の現場でも奮闘しました。それぞれの現場からひと言、どうぞ!

大石将弘



ナイロン100°C「拳丸」稽古場より。

ナイロン100°C「拳丸」の稽古中です。ままごと在籍しながらナイロン100°Cに入団して4年目、2作目の出演です。作品の全貌も、タイトルが示す意味も、自分の役の行く先も見えないまま稽古場に通っています。日々追加される台本を「え? そうだったの?」と思いながら読んでるので、きっとお客さんも裏切られながら観る体験になるのではないかと。お楽しみに。

『わたしが悲しくないのはあなたが遠いから』から 『我並不哀傷 是因為你離我很遠』へ

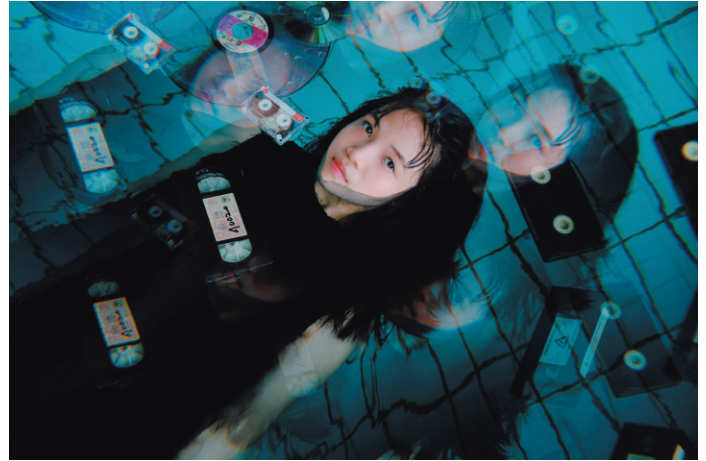
TAIWAN

2017年にフェスティバル / トーキョー 17参加作品として上演された『わたしが悲しくないのはあなたが遠いから』。

東京芸術劇場のシアターイーストとシアターウエスト、隣り合う2つの劇場で、ペースはほぼ同じの2作品を同時上演しました。同作が9月に台湾にて『我並不哀傷 是因為你離我很遠』のタイトルで上演されます。

本プロジェクトはもともと台湾との国際共同製作として始まったもので、2回目のタッグとなる今回は柴が台湾を訪れ、現地の俳優と共に新たな『わたしが悲しく〜』を生み出します。

公演は9月28日から30日まで、台湾・臺北藝術大學 戲劇廳／舞蹈廳にて。ぜひご注目ください。



撮影：登曼波 (Manbo Key)

NEXT

● 加藤仲葉【制作】

東京デスロック+第12言語演劇スタジオ

『ガモメ カルメギ』

2018年6月30日 [土] - 7月8日 [日]

@ 神奈川・KAAT 神奈川芸術劇場 大スタジオ

2018年7月13日 [金] - 15日 [日]

@ 三重・三重県文化会館 小ホール

2018年7月20日 [金] - 22日 [日]

@ 兵庫 AI・HALL

2018年7月27日 [金] - 28日 [土]

@ 埼玉・富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ マルチホール

<http://deathlock.specters.net>

● 小山薫子【出演】

円盤に乗る派『正気を保つために』

2018年7月5日 [木] - 10日 [火] @BUoY

<http://noruha.net>

● 石倉来輝【出演】

スペースノットblank

『舞台らしき舞台されど舞台』

2018年9月6日 [木] - 9日 [日]

@ カフェムリウイ 屋上劇場

<http://spacenotblank.com>

● 大石将弘【出演】

ナイロン100℃ 46th SESSION『鞆丸』

2018年7月6日 [金] - 29日 [日]

@ 東京芸術劇場 シアターウエスト

2018年7月31日 [火] - 8月1日 [水]

@ 新潟・りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館 劇場

2018年8月4日 [土]

@ 宮城・えずこホール (仙南芸術文化センター) 大ホール

2018年8月11日 [土・祝] - 12日 [日]

@ 福島・いわき芸術文化交流館アリオス 中劇場

<http://sillywalk.com/nylon/>

● 柴幸男・宮永琢生・端田新菜・石倉来輝・

小山薫子【出演】

坂手みなとまつり

2018年7月29日 [日]

@ 香川・小豆島 坂手港

● 加藤仲葉【制作】

演じるシニア2018

帰ってきた、春秋座サバイバーズ

『レジェンド・オブ・LIVE II』

2018年8月25日 [土] - 26日 [日]

@ 京都・京都芸術劇場 春秋座

※関連事業として7月28日 [土] に制作WSあり。

<https://www.enjiru-senior.com>

● 柴幸男【作・演出】

小山薫子【演出助手】

2018 臺北藝術節 (台北芸術祭)

『我並不哀傷 是因為你離我很遠』

(わたしが悲しくないのはあなたが遠いから)』

2018年9月28日 [金] - 30日 [日]

@ 台湾・國立臺北藝術大學

展演藝術中心 戲劇廳／舞蹈廳

● 柴幸男【作・演出】

大石将弘・小山薫子・端田新菜【出演】

加藤仲葉・宮永琢生【制作】

ままごと

『ツアー』 ツアー

2018年10月上旬

@ 新潟

2018年10月中旬

@ 香川・小豆島

2018年11月上旬

@ 沖縄

<http://www.mamagoto.org/tour.html>

● 石倉来輝【出演】

ジャポニスム2018 舞台公演

チェルフィッチュ『三月の5日間』

リクリエーション

2018年10月17日 [水] - 20日 [土]

@ フランス・ボンビドゥ・センター

<https://chelfitsch.net>

● 大石将弘【出演】

ロームシアター京都 レポートリーの創造

木ノ下歌舞伎『糸井版 摂州合邦辻』

2019年2月10日 [日] - 11日 [月・祝]

@ 京都・ロームシアター京都 サウスホール

2019年2月15日 [金] - 16日 [土]

@ 愛知・穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 主ホール

2019年3月14日 [木] - 17日 [日]

@ 神奈川・KAAT 神奈川芸術劇場 大スタジオ

<http://kinoshita-kabuki.org>

編集後記

春先は「ツアー」を中心に、同じ時間を過ごすことが多かったままごと。新たな劇団員が増え、「ままごとの新聞」もより新しく、充実した内容を目指していきます。次号は秋頃に発行予定です。お楽しみに! (熊井)

ままごとの新聞 21号

2018年7月発行

発行：一般社団法人mamagoto

編集：熊井玲 デザイン：セキコウ

ままごと
mamagoto